

金陵の鳳凰台に登る（李白）

鳳凰台上 鳳凰遊ぶ

鳳去り 台空しうして 江自ら流る

吳宮の花草 幽徑に埋もれ

晋代の衣冠 古邱と成る

三山半ば 落つ 青天の外

二水中分す 白鷺洲

総べて 浮雲の能く 日を蔽うが 為に

長安見えず 人をして 愁えしむ

鳳凰臺上鳳凰遊 鳳去臺空江自流  
吳宮花草理幽徑 晋代衣冠成古邱  
三山半落青天外 二水中分白鷺洲  
總爲浮雲能蔽日 長安不見使人愁

解説 金陵の鳳凰台に登って作つたもの。

語釈 ※金陵＝楚の威王がここに王氣が立ちのぼるといので、金を埋めて鎮めたことから金陵といつた。※鳳凰台＝南京の東南隅にある台。鳳凰は鳳が雄で、凰が雌である。※台空：鳳凰がいないのに台だけが空しく残っている。※吳宮＝吳王の宮殿。※幽徑＝もの寂しい小道。※晋代＝南京に都を置いた東晋。※衣冠＝衣冠をつけた王侯貴族。※古邱＝古い塚。ここは古くなつた墓地の意。※三山＝三つの峰が南北に並んでいるところから、この名がある。※半落＝三山の上半分が雲に隠れて見えず、下半分が見えること。※二水＝白鷺洲で二つに分かれているので二水という。※白鷺洲＝秦淮河にある中洲で、南京城外の西南八里の所にある。※浮雲能蔽日＝邪臣が主君の明をおおつて賢臣を迫害する事にたとえる。※長安不見＝表の意味はただ都の長安が見えないというのであるが、裏の意味は天子（玄宗皇帝）にお仕えすることが出来ない。※人＝李白自身をいう。

通釈 ここ鳳凰台には、昔、鳳凰が遊んだと伝えられているが、その鳳凰も去つてこの台だけが空しく残っており、長江の水は昔ながらに流れている。吳王孫権の宮殿に咲き誇つていた草花も今はなく、また、人の通らない寂しい小道となつてしまつた。そして、東晋時代の衣冠をつけた王侯貴族も死んでしまひ、今は古い墓地の土と化してしまつた。人の世は変転きわまりなく儂いものである。この台上から遠くの方を見渡すと、三山は、上半分が雲に隠れて見えず、下半分だけが青空の彼方から落ちてきたかのように見え、秦淮は左右に分かれて、白鷺洲をめぐつて流れている。自分は色々あつてこの地まで放浪して来たが、この景色を見るにつけても都がたまらなく恋しくなる。しかし、空の雲が太陽を覆い隠している為に、天子のおられる長安が見えず、愁い悲しむことである。